



世界の地域から

シンガポール共和国

シンガポールは観光を主要産業のひとつと位置づけ、シンガポール政府観光局（Singapore Tourism Board）を中心に観光振興に取り組んでいます。人口約500万人のシンガポールには、毎年世界各地から約1,000万人の来訪者があります。

2008年からは毎年F1が開催され、2010年にはカジノを含む総合リゾートが相次いで開業するなど、新たな観光資源の開発も進んでいます。

また、近年はバイオ関連産業の振興や水資源の開発を積極的に進めるなど、都市国家として日々進化し続けるシンガポールの現在をお伝えします。



リゾート・ワールド・セントーサ (RWS)



RWSの中核施設「ユニバーサル・スタジオ・シンガポール」

マレーシア企業の「ゲンティン」グループが中心となって開発が進められている、セントーサ島北側に広がる総合リゾート。「ユニバーサル・スタジオ・シンガポール (USS)」を中心に、カジノ、高級ホテル、ショッピングモール等を備えています。2010年2月にカジノ、2010年4月にUSSがオープンし、今後2012年にかけて水族館、博物館などが順次開業の予定です。



RWSのカジノ。外国人は入場無料ですが、シンガポール人と永住者はS\$100の入場料がかかります。

マリーナ・ベイ・サンズ (MBS)

アメリカ企業「ラスベガス・サンズ」の系列企業による総合リゾート。3つの棟からなる高級ホテルとその上に広がる「スカイ・パーク」が特徴的です。2010年4月にカジノとショッピングモールが部分開業し、今後シアター、博物館、ブランドショップなどが順次開業の予定です。



観光客で賑わうマーライオンパークからMBSを望む



MBSの夕景。



屋上の「スカイ・パーク」に設置されたプール。シンガポール市街が一望できます。

シンガポール・フライヤー



マリーナ地区にある世界最大級の観覧車。故黒川紀章氏が設計に携わりました。

エスプラネード



マリーナ地区に2002年にオープンした、劇場、コンサートホール等からなる芸術文化施設で、外観はシンガポールの代表的な果物であるドリアンをイメージしています。

F1

2008年から世界最高峰の自動車レース「F1シンガポールグランプリ」が開催されています。約5kmの市街地の公道を封鎖して、夜間に行うレースで、毎年多くの観客を集めます。



2009年のレースの様子

チンゲイ・パレード

毎年旧正月頃に行われる、アジア最大級のストリートパレード。世界各国からダンサーが集まり、観客も数万人に上ります。2011年は2月11、12日に開催予定です。



2010年のパレードの様子©Singapore People's Association

バイオポリス



バイオ関連の研究拠点として整備された「バイオポリス」。シンガポール政府は近年、バイオ関連産業の振興に重点を置いており、世界中の企業や研究機関を誘致しています。日本の企業や大学の研究室もあります。

ERP (Electric Road Pricing)



中心部の渋滞緩和のために、いわゆるロードプライシング（道路課金）システムが導入されています。中心部に向かう道路では、このような課金ゲートをよく見かけます。

シンガポールの水事情

シンガポールで使う水は、その多くをマレーシアからの輸入に頼ってきました。近年は最新の技術を導入して、海水淡水化や下水を高度処理するプラントを設置し、水の自給率向上を図っています。



マレーシアから水を輸入するための送水管



マリナー・バラージ。河口に堰を設け、海水を淡水化するための施設です。一般に公開されており、見学することができます。



シンガポールでは下水を高度処理して再利用しており、「NEWater（ニューウォーター）」と呼ばれています。こちらはビクターセンターで、施設を見学することができます。